

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.19

共汗部会 第4回まちづくり部会

(「都市計画」「住環境」「都市基盤」分野)

主な議事：分野別方針＜歩くまち、都市基盤＞の検討

開催日：平成22年3月17日(水)

会場：消防局本部庁舎



レポーター 藤川 祐輔さん

立命館大学政策科学部の新3回生。好物は讃岐うどん。しかし京都には讃岐うどんの店が少ないので新たな好物を探している最中

会議のポイント

POINT 1.

歩いて楽しいまち京都を目指して



自転車の推進と同時に公共交通の促進を図ることは難しいのではないかと。公共交通の充実を図るために予算をただカットするのではなく、カットする分を公共交通のサービス向上に使ってはどうか？などの意見がありました。

POINT 2.

目指すべき都市基盤の在り方は!?



京都の通りや町は文化が生まれてきた場所なので、もう一度「暮らし、なりわい」を考える必要がある。インフラ整備を市民にうまく情報伝達できる方法を考える必要があるのではないかと？などの意見がありました。

この会議を傍聴して、 藤川さんが思ったこと。

今回の会議では「歩くまち京都」の話題で多くの時間を割きました。歩いて暮らせるまち京都を目指すのは良い考えだし、会場のほとんどの人が賛成であったのではないかと思います。しかし、一人が行動するだけでは、決して歩いて暮らせるまちにはなりません。例えば、皆がマイカー通勤・通学をやめて公共交通を使うようになれば、そのニーズを受けて公共交通の利便性はさらに向上します。公共交通の便が悪いという理由でマイカー通勤・通学するのではなく、みんなで協力して歩くまちを目指さなければ決して実現できないのではないのでしょうか？

私ならこうする！ 未来の京都に向けた藤川さんの提案

今回、歩くまちが中心的な話題でしたが、歩くまちを実現させるためには公共交通の充実を図るだけではなく、自分たちの暮らすまちの通りで「歩いて」生活できるようにしなければなりません。そのためには、地域住民の皆さんが自分たちで家の前の通りがどのようなようであったら歩いて暮らせる通りとなるのか、ワークショップなどを通じて議論を重ねる必要があるのではないのでしょうか。議論の結果、条例の制定・道路整備を行政が行い、都市基盤がつくられます。また行政だけではなく、地域住民の皆さんが地域のルール作りや憲章の策定を行っていく必要があると私は考えます。歩くまちを目指すためには、市民と協力しあえる社会をつくらなければいけません。

U35については、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行：京都市 編集：未来の担い手・若者会議U35

